第２回　西部特別支援学校　学校運営協議会　議事録

日　時	令和４年 10 月 18 日(火)　　13 時 30 分から 15 時まで
場　所	西部特別支援学校　会議室
出席者	木下清史様(三方原地区根洗自治会長)、山口治茂様(細江地区湖東自治会長)、安達広様(聖隷三方原病院事務局長)、川合由美様(浜松市社会福祉事業団施設長)、加藤久貴様(弁護士)、山田浩昭様(元特別支援学校長)、松本浩一様(ＰＴＡ会長) 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、訪問主任、教務課長
内　容	次第 １　校長挨拶 ２　協議事項 ⑴　地域とのつながりについて ⑵　災害時の対応について ３　諸連絡
協議での意見等	⑴　地域とのつながりについて 〇学校周辺で、児童生徒が校外や校内で利用(場所)したり・活用(人や物)できたりすること ・旧校舎から行ってきた活動(根洗地区民生委員の運動会への参加、茶摘み体験、さつまいも掘、地元の歴史についての聞き取り、など) ・近隣地域で行われている行事やイベントへの参加や、学校行事への地域の方の参加(文化祭、作品展、スポーツなど) ・交流校や近隣施設へ積極的な交流活動 ・聖隷クリストファー大学、常葉大学、浜松学院大学などとの交流を行うことで、災害時のボランティアにも繋がっていくのではないか。 ・地域の行事やイベントについてや、児童生徒にやらせたいことなどを、自治会長などと連絡を取り合うこと 〇本校を知ってもらうために学校から発信したり、学校が受け入れたり(来校など)できること ・校外に出て直接交流したり、行事などにおいて地域の方や地元の学校、企業などを招待したりするのが良い。 ・作品展示など物が出ていくのが比較的容易である。他の特別支援学校高等部の作業製品を、施設の一部(室外)を利用し販売している。 ・企業の施設の一部を借りて作品展示も行っているところもあるので利用すると良い。

	・なんで地域の方に知ってもらいたいかの目的をはっきりさせて、ターゲットを絞らないとアプローチが弱くなる。 ・インターネットの活用。インスタなどは興味のある人を含め不特定多数の人に知ってもらえる。 ・直接交流できなくても、オンラインを利用して繋がりを重ねていくと良い。 ⑵ 災害時の対応について、それぞれの現状の確認 ・ハザードマップを利用した災害想定システム(本校) ・福祉避難所としての設営(本校) ・サバイバルキャンプの裏で、避難所立ち上げの訓練を行いが、実際の時の、職員が動けるか、様々な人への対応などの課題があがった。(福祉施設) ・病院は入院患者が中心。外部を受け入れることはしない。72 時間対応する非常設備とその燃料を保持することになっている。(病院) ・人工呼吸器が使えるだけの電力の確保が課題である。 ・災害の時に、だれが施設を開けるのかが周知されていないと、避難者やボランティアが入れない。 ・非常用電源の確保、太陽光発電があるが、非常用蓄電池もエレベーター対応になる。 ・自動車業界は警察と連携して発電できる PHV の貸し出し。市としては発電できるハイブリット車(1500W 発電可)を貸し出す契約をしている。 ・介護施設ではハイブリット車を一台入れるようにしている。 ・自治体として要支援者の名簿を用意している。自主防災隊が安否確認を行い、公民館等に避難を呼びかける。湖東地区は公民館と幼稚園が避難所となる。全員入れないから、自身の家が大丈夫な場合には、自治会で把握しているのは、家で避難生活をする。備蓄品は最低でも 2 週間分用意呼びかける。公民館に水が 20600 本。1 世帯 1 本行くかどうか。米は 500 キロ。個別の避難計画はない。 3　第３回学校運営協議会について 令和５年２月 14 日(火)13 時 30 分から 15 時まで行うことを確認した。